

E

Environment 環境

Environment

環境保全への取り組み

当社は、地域に根ざした総合建設業として、自然との共生を重視した持続可能なまちづくりを推進しています。

具体的には工事に伴うCO₂排出量の削減、省資源・省エネルギー化の徹底、建設副産物の適正処理や再資源化などを通じて、環境負荷の低減に取り組んでいます。また、地域の気候風土を尊重した施工・事業活動を目指しています。

今後は、このような環境保全の取り組みを会社全体で継続的かつ体系的に進めてまいります。



木材活用で築く 持続可能な建築のカタチ

“木”を活かした建築は、環境負荷を抑える手段として近年ますます注目されています。木材は成長過程で大気中のCO₂を吸収・固定する特性があり、脱炭素社会の実現に向けた有効な資源とされています。

当社が山梨県忍野村で建設した保養所では、内外装に木材を多用し、周辺景観の保全に配慮しました。さらに木材の活用が森林資源の循環利用や林業の活性化にもつながっています。

また、北海道札幌市に昨年竣工した産学官連携によるオープンイノベーション施設「エア・ウォーターの森」では、北海道



山梨県忍野村 保養所



クリーンエネルギーの推進 風力発電・バイオガス発電

クリーンエネルギー施設の建設は、カーボンニュートラル社会の実現に向けた重要な取り組みのひとつで、特に風力発電やバイオガス発電はCO₂排出量の削減につながり、地球温暖化の防止や持続可能なエネルギー供給体制の構築にも大きく寄与します。

風力発電は発電時の出力が大きく、電力供給効率の高さから注目されており、なかでも北海道は広大な土地条件と安定した風況を備えた適地として、今後の導入拡大が期待されています。

一方、バイオガス発電は、家畜のふん尿などの有機性廃棄物からガスを生成し活用する仕組みであり、循環型社会の構築に大きく貢献します。

産の耐火集成材が主要構造体に採用されています。

木材は製造時のエネルギー負荷が低く、断熱性・調湿性にも優れており、建物の省エネルギー化にも大きく貢献します。

さらに、再生可能な地域資源として“木”を活用することは、森林資源の循環利用や地場産業の活性化にもつながり、地域経済と環境の双方に寄与する持続可能な選択といえます。

今後も私たちは、木材や木質仕上げの特性を活かした建築を通じて、脱炭素社会の実現に寄与するものづくりを推進してまいります。



北海道札幌市
エア・ウォーターの森



北海道 豊富町「芦川ウィンドファーム」



北海道 豊富町「バイオガスプラント」

バイオガス発電は現在、国内では家畜頭数全体のわずかな数%規模しか導入されていないことから、今後の普及が見込まれる分野でもあります。

このようなクリーンエネルギー施設の建設は、環境負荷の低減だけでなく、持続可能な社会基盤の形成にも欠かせない役割を果たしており、私たちは今後もその実現に向けて取り組みを推進します。

Environment 環境



緑の水田プロジェクト

2014年から活動を継続している「緑の水田プロジェクト」は、地域の活性化や景観の保全、生態系の維持を目的に実行している環境保全への取り組みのひとつです。具体的な取り組みとしては、休耕田の再生を通じて自然と人とのつながりを深めることを目指し、役員・従業員とその家族や子ども達も、毎年田植えや稲刈りに参加しています。

つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター認定

この取り組みが、2024年、全国の棚田の保全や美しい農村風景の継承を支援する農林水産省の「つなぐ棚田遺産 オフィシャルサポーター」に認定されました。

私たちの活動拠点である北海道岩見沢市毛陽町の水田（棚田）では、緑の水田プロジェクトの継続的な活動により、地滑りや洪水等の災害発生の抑止となると共に、多種多様な生き物を育む生態系の宝庫としても、「棚田遺産の伝承の大きな役割を担っている」と評価されました。

これからも、北海道では貴重な存在であるこの棚田を、地域の財産として未来へ引き継いでいけるよう、活動を継続いたします。



2024年6月 田植え



2024年9月 稲刈り



緑の森林プロジェクト

「緑の森林プロジェクト」は、森林を適正に整備し木材を利用促進することで、脱炭素社会や循環型社会の実現、生物多様性の保全に貢献することを目的として、2022年度から活動を継続しています。当社では、いくつかの森林を所有し近隣地域の状況や歴史的な背景を考慮した整備を行なってきました。



旧朝日炭鉱坑口周辺 上空写真

破損・倒壊していた扉の整備などを実施



緑の森林プロジェクト

「炭鉱の灯り&アコースティックライブ」

主催：NPO法人炭鉱の記憶推進事業団

緑の森林プロジェクトのフィールドのひとつである岩見沢市朝日町。この地域との関わりが深まる中で、地域で開催されるイベントに本プロジェクトの一環として当社も協力させていただきました。

キャンドルの灯りと共に炭鉱の歴史を語り継ぐこのイベントは、地域の歴史を次世代へとつないでいくものであり、森林や里山の環境を守り伝えるという本プロジェクトの理念とも響き合うものです。

2024年度は、このプロジェクトフィールドのひとつである岩見沢市朝日町「旧朝日炭鉱坑口」周辺の整備を7月から実施しました。

この旧坑口は地域の小学生が学習の一環で見学に訪れるスポットにもなっていますが、老朽化が著しく倒壊等の危険もあったことから、安全に見学できるよう柵や扉の修繕、見学台の拡張を図り、加えて炭鉱紹介看板や間伐材の切り株を活かした休憩スペースも整備しました。

今後も本プロジェクトの推進により、環境に配慮する企業としての責任を果たしていきます。



炭鉱紹介看板

見学スペースの拡張



間伐材の切り株を活用した休憩スペースを整備



地域ゆかりの音楽家によるライブ演奏もありました